

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902603		
法人名	有限会社ヘルプ		
事業所名	グループホーム福寿草(1F)		
所在地	北海道旭川市永山2条23丁目1番22号		
自己評価作成日	令和2年2月17日	評価結果市町村受理日	令和2年4月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902603-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	令和2年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

創設当初から掲げている「ここが我が家だ」の理念を基に、入居者は家族の一員、人生の貴重な先輩として、かかわることを心がけている。日常生活の中で、入居者本人や家族の思いをくみとるために、普段から関係を密にすることを心がけ、よりよい支援に繋げられるように努めている。毎日の体操や日替わりのレクリエーション活動を通じた機能訓練に加え、個別機能訓練等を実施し、ADLの機能維持・向上に努めている。運営母体の医療機関とは、24時間体制で医療連携をとっており、利用者様の体調変化についても随時報告したり、早めの受診・対応を心がけている。また、個別のかかわりも大切にしており、その人らしい楽しみや生きがいもてるような支援を行っている。また、町内会に加入しており、町内清掃や地域行事への参加、学童防犯パトロールの協力を行ったり、近隣の旭川大学の実習生の受け入れ・大学生や附属幼稚園との交流や月1回華道教室のボランティアに来てもらうなど、近隣・地域との交流の機会をもつよう努めており、入居者の方が地域社会とのつながりを持ち続けることができるよう心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、国道39号線沿いに位置し、近くにはスーパー等があり買い物も容易で、バス停にも近く、JR永山駅は徒歩15分と交通の利便性が良い場所にある。木造2階建て2ユニットのグループホームで、敷地入口には福寿草を模した大型の案内板が掲げられ、建物は若草色と黄色の福寿草カラーで遠くから見ても分かりやすい事業所である。母体法人は医療と福祉のグループで緊密な連携のもと運営され、24時間体制の医療連携もあり「ここが我が家だ」という理念の基、利用者は安心して暮らすことができる。地域との交流を大切に、町内の清掃に参加し、職員は児童交通パトロール(通学見守り)を行い、近隣の旭川大学や幼稚園との交流は数年続いており、大学の実習で事業所での学びを通じた学習交流、園児とお遊戯会で触れ合う世代間交流、華道教室のボランティア等、楽しみと生きる喜びを持つことができる。胆振東部地震によるブラックアウトの経験から、令和2年1月に自家発電装置も完備して停電時に備えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ここは我が家だ」のモットーと、従業員心得の理念を事業所内の見やすい場所に掲示している。職員の入職時に、管理者から理念を説明したり、職員会議で改めて共有したりしている。	居間に、運営理念の7か条と従業員心得の10か条を掲示している。毎月開催の内部研修で理念の共有化を図り、日々の実践に活かしている。				
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内清掃や地域行事、学童防犯パトロールにも参加している。近隣の旭川大学の実習生の受け入れ、大学生や附属幼稚園との交流や月1回華道教室のボランティアに来てもらうなど、近隣・地域との交流の機会をもつようになっている。	町内会行事の道端清掃・学童防犯活動に参加し、近くの大学や付属の幼稚園から実習生の受け入れや園児との世代間交流を行っている。また、毎月華道教室のボランティアが来訪する等地域と良好な関係を築いている。	近隣町内に行った事業所の役割や認知症の理解についてのアンケートでは、事業所の見学会や認知症の方との係わり等の勉強会に参加したい等の回答から、見学会や勉強会を開催するなど、地域と事業所のより良好な関係が更に築かれ、認知症への理解が深まることを期待する。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福寿草通信を作成し、町内会や大学、信金等に配布し、グループホームでの活動を知らせてもらったり、認知症についての情報等発信するよう心がけている。昨年中には、当施設や認知症についての認知度を高めるためのアンケートを実施し、今後の地域でのグループホームのあり方・担える役割などについて検討している最中。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、施設での取り組みや行事等の活動報告をした際に、意見や助言をいただき、サービス向上に努めている。現在18時から実施しているが、次回開催分から、行事の後の時間に開催予定としている(狙い:家族や地域住民の方にも行事に参加してもらう。行事後に会議を実施することで、会議参加者の意見をより反映させやすい形とする)。	2ヶ月毎に年6回開催し、市役所職員、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、家族等が参加して、事業報告や利用者の動向等が話し合われ、得られた意見や助言を運営に反映させている。	開催時間や議題の内容に工夫を凝らし、家族や近隣住民等が参加しやすい環境を作りながら、認知症の理解を深める機会を創出し、地域に密着したより良い運営と事業所づくりに期待する。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者にも運営推進会議に参加してもらい、施設での取り組みに対して必要な意見や助言をいただいたり、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	運営推進会議で市担当者や地域包括支援センター職員から新たな情報や指導・助言等を得て、密接な連携・協力を築いている。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修や外部研修、施設内研修にて、身体拘束について学べる機会を定期的に設けている。身体拘束マニュアルを作成し、いつでも閲覧できる場所に配置したり、職員会議で話題に出したりして、意見を出し合う機会を設けている。	3か月毎に開催している身体拘束廃止委員会と年2回の内部研修で、職員全員が拘束の対象となる具体的な行為等の研修を積み、拘束をしないケアに努めている。なお、玄関の施錠は防犯上夜間は施錠している。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修や外部研修にて、虐待防止について学ぶ機会を設けている。職員会議や各ユニットでの申し送り等の際に、ケアの方法が虐待にあたらないか、管理者を中心によく吟味し、介護方法を検討している。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて、権利擁護に関する制度についての理解を深めるようにしている。現に、後見人がついている入居者がおり、普段から連絡をとりあい、協力関係が築けるよう心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に入居者と家族の前で説明や情報提供を行い、不安や疑問点を尋ねたり、十分な説明を行い、ご理解・納得がいただけるよう心がけている。管理者だけでなく、職員にも気兼ねなく話せる体制づくりを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時や普段のかかわりを通して聞かれた要望等について共有し、毎日の申し送り時や職員会議の際に共有し対応について検討するようにしている。昨年中はご家族アンケートを実施し、アンケート結果について職員間、法人の長等と共有し、運営に反映させられるよう心がけている。	日々の生活から利用者の希望や要望を把握し、家族からは来訪時や電話で意見や要望を聞くよう努めている。利用者家族の声を聴くためのアンケートを実施し、運営推進会議で結果を報告し、出された意見や要望を運営に繋げるよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月1回の職員会議にて、職員の提案や要望を聞き、必要な対応を取るようになっている。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努めるとともに、職員会議で気付いた事やアイデア等を出して意見交換を行っている。管理者は法人管理者会議で事業所の運営や処遇改善計画等が話し合わせられ職員意見の反映に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員個々の状況を把握して代表者に伝えたり、必要な職場環境や条件の整備を行うよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の時や毎朝のミーティングの際に、法人内外で実施されるスキルアップのための研修を厳選して案内している。経験年数や個人の能力を加味して、各人にとって必要と思われる研修には、代表者や管理者が研修への参加を個別に促すようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業所の会議や交流会に出席し、情報交換や意見交換を行ったりしている。管理者はキャラバンメイトとなり、認知症サポーター養成講座を同業者と共催したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個別のかかわり・傾聴を丁寧に行うことで、本人の安心できる声かけや介助方法を職員間で共有し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご意向、これまで大切にされてきたことなどのお話を丁寧に伺い、それらを日々のかかわりに生かすことができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活状況や入居時の状況を十分に把握することで、アセスメントを的確に行い、必要な支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	茶碗拭きや洗濯畳み、おしぼり畳みなど、入居者が担える役割をつくり、職員とともに毎日の生活を営むことができるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には職員からご家族に話しかけたり、お気持ちをお聞きしたりすることで、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。また、本人にとって生活上必要なものの購入をお願いしたり、本人が好むもの(嗜好品等)を伝え、面会時にご持参いただくようお願いしたりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人等が入居者に会いに来やすいような環境づくり・関係づくりに努めている。面会時には、居室でゆっくりと時間を過ごして頂いたり、本人・家族等の希望に応じて、外出や外食にいたりできるよう支援している。	利用者との日々の会話や家族等から話を聴き、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努めている。利用者の身だしなみに配慮する様、理美容院は訪問理容としている。個別外出にも出来る範囲で希望を叶えられるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のかかわりを通して、入居者同士の関係を把握・情報共有し、入居者一人ひとりが孤立せず入居者同士が関わりあい、支えあえるような支援ができるよう努めている。必要時は職員が介入し、関係調整・関係づくりの支援を行ったり、席の配置換えやよりよい環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、本人や家族等の要望があれば、介護や他入居施設の相談等随時受け付けられる体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の話を傾聴し、生活に関する要望や不自由なことがないか等適宜確認するようにしている。希望や意向の把握が困難な入居者については、家族の意向をもとに検討したり、本人本位に検討するよう努めている。	入所時の面談記録(フェイスシート)等を参考に本人や家族等の意向・要望等を普段の生活状況や関わりの中で確認している。多くは面会時に居室で思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート等を活用し、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。フェイスシート等で把握できていない情報については、家族面会時等に伺ったりしながら本人理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の一日の過ごし方や心身状態がわかるように、生活アセスメントシートに毎日記入を行っている。アセスメント(別紙)は、計画作成担当者が他の職員からの意見等も聞きながら定期的(ケアプラン作成前)に作成し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族面会時等、随時、本人や家族の意向を確認し、よりよいケアが提供できるように努めている。毎月の職員会議時にモニタリングを行い、ケアの実践・結果について話し合ったり、介護計画の内容の見直しを行ったりしている。サービス担当者会議では介護計画の内容について共有し、本人、家族、職員等で話し合い、それぞれの意見やアイデアが反映できるよう努めている。	本人や家族等の意向を面会時やサービス担当者会議の時に確認し介護の内容に反映させている。介護計画は、6か月毎に作成し毎月モニタリング(評価)を行い、チームで協議している。容体に変化等あった場合は、随時介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録や申し送りを通して、情報共有に努めている。また状態変化、特記事項があった際には、別紙個人記録に記入するようにしている。毎月の職員会議時にはモニタリングを職員全員で行い、ケアの実践・結果について話し合ったり、気づきや今後のかかわりにおける工夫などについて検討、共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに生かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の希望や状況に応じたサービスを提供できるよう、随時職員間でニーズを把握し、情報提供を行うよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのつながりを個人的に持っている入居者はいないが、地域の行事に入居者とともに参加したり、近くの大学や附属幼稚園等との交流やボランティアによる定期的な活動(月1回華道教室)を通して、地域とのかかわりをもち続けることができるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調変化や受診の必要性があった場合は、かかりつけ医に受診した内容をその都度家族に報告し、意向等確認するようにしている。本人や家族が希望した場合、協力医療機関だけでなく、その他医療機関の受診も検討し、本人の疾病状態に合った適切な医療が受けられるよう心がけている。	利用者、家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。協力医による月1回以上の往診と看護師による健康管理が行われ、常に利用者の健康状態を把握しながら適切な医療を受けられるよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や受診の際に、入居者の心身の状態を報告し、指示を仰いだり、ケアの方法について相談したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、職員も付き添ったり定期的に面会にいき状況を把握し、退院にむけての準備を早期に整えることができるよう努めている。また、面会時には医療機関スタッフとの情報共有も行い、退院に向けてチームで取り組んでいけるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面で十分な説明をし同意を得ている。重度化や終末期になった場合は、医療機関と連携しながら家族に丁寧な説明を行ったり、家族と連絡を密に取り合い、意向を確認するように努め、本人らしい最期を迎えることができるよう努めている。	入所時に緊急時の対応や重度化・終末期等に備え、「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき、書面で丁寧な説明を行い家族等の同意を得ている。また、体調変化等その都度、家族等に状況報告を行い、ケア方針の共有と支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを、職員が見やすい場所に掲示している。また、事故やヒヤリハット事例をレポートにし、職員間で情報の共有をしたり対応について職員会議やミーティングで検討したりしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。町内会を含めた緊急連絡網も作成しており、近隣との協力体制も作っている。	年2回、夜間想定を含めた避難訓練を近隣の町内会等の協力のもと、各自役割分担を明確にして危険個所の確認や、ケア場面の対応等を想定した訓練を実施している。食糧や水などを備蓄し、自家発電装置も完備して停電時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちや自尊心、羞恥心などに配慮しながら言葉かけを行うよう努めている。プライバシーの確保にも配慮し、記録などの個人情報の取り扱いも気をつけるよう努めている。	日頃から利用者一人一人の誇りや羞恥心等に心くばりを欠かさないよう努めている。毎月内部研修を行って徹底を図り、利用者の人格尊重などを損なわないよう日々のケアに心がけている。個人情報は人目に触れない場所に適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の意思や希望を確認し、思いを表現しやすい環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールや週間スケジュールに沿ってケア等提供しているが、その日の状態や体調、本人の気持ちなどに配慮しながら、本人の気持ちや希望にそってケアを提供できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問美容の機会をもうけ、ご本人やご家族の希望をお聞きしたうえで、カット、カラー、パーマなどを行っている。また、毎朝の洗顔、髪の設定、更衣など日々のケアの中で身だしなみを整えることができるよう努めている。髭剃りや爪きり等は適宜行う機会をもうけるようにしている。		

グループホーム福寿草(1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回程度、特別メニュー(ホームで手作り)を提供したり、季節の行事を取り入れた食事メニューを提供するなど、季節感を感じられたり、食事を楽しめるような支援を行っている。入居者の方にはおかずの盛り付けや食器拭きを手伝ってもらうなどして利用者と職員と一緒に仕度や片付けができるような体制がとれるよう工夫している。	平均年齢92歳の高齢化に伴い、食材をすりつぶす等利用者個々に合わせている。また、季節を感じてもらえるようその季節に合わせた様々な工夫をしながら食事を提供している。職員と一緒に食事の盛り付け、お絞りのたみ等をして楽しみながら食事が出来るよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嚥下状態や体調に合わせて、主食は米飯・粥・ペースト、副菜は一口大・刻み・極刻み・ペーストにするなど、適切な形状にして食事提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守りや介助による口腔ケアを行っている。義歯は毎晩洗浄剤につけ消毒を行っている。訪問歯科医の助言・指導を取り入れ、口腔ケアの実施に取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔を記録し、本人に合わせたトイレ誘導や声かけを行っている。リハビリパンツを使用している方も、なるべくトイレに座って排泄ができるよう努めている。	自尊心を損なわないよう排泄記録簿等により個々の行動パターンやサインに気を配り、早めの声かけや誘導等をしてトイレでの排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の食事摂取量、水分摂取量の確認、排便状況の確認を行い、必要な方には下剤を使用し排便コントロールを行っている。なるべく下剤を使用しなくてよいように、オリゴ糖やヨーグルトを摂取してもらったり、腹部マッサージを行う等、工夫を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴の機会をもうけており、ご本人のタイミングや体調にあわせて入浴時間を調整したりしている。季節を感じたり楽しんで入浴できるような工夫(ゆず湯、入浴剤の使用)も行っている。	週2回を基本とし、個々の体調に合わせて柔軟な調整をしている。入浴剤を入れて四季折々の季節感を取り入れる等、楽しんで入浴できるような工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や生活スタイル、体調等に合わせて、声かけ等行い、日中必要な時に休息がとれたり、夜は安心して気持ちよく眠れるよう各人に合った支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容(内服の目的)や副作用については、説明書を読むなどして職員各自が理解し、必要な内服支援を行うことができる。内服後、変化があった場合や内服の調整が必要と思われる場合は、随時医師や訪問看護師に電話で連絡したり受診して相談するなど早め早めに対応するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、できるだけ役割を担ってもらえるよう、各人の生活歴や得意なこと、嗜好などを生かして、そのような機会を提供するよう努めている。毎日のレクリエーションや季節の行事への参加を通して、季節感を実感したり楽しみを感じられるような支援を行うよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時期に応じて、季節を感じる事ができる場所に出かける機会を設けるようにしている。また、個別外出の機会もなるべくもうけるようにし、その方の思い出の場所や出かけた場所等の希望をお聞きし、可能な範囲で対応するよう努めている。	四季折々に合わせ、花見は近隣の酒造の庭園、秋には鷹栖町の収穫祭や高校野球を観戦したりして楽しんでいる。また、ドライブで車窓から動物園等の周辺の景色を楽しむ等工夫した外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別外出等で金銭の支払い等の機会があり、ご本人が可能(希望がある)な場合は、職員付き添いのもと、金銭の支払いができるような支援を実施している。普段は金銭のやりとりはないので、基本的にご本人がお金を所持することはない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される場合には、職員仲介のもと、電話ができるよう支援している。また、本人宛の郵便物は本人と一緒に確認したり、希望があれば返信ができるような支援を行うようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには花や季節感のある掲示物など飾り、季節を感じられるような飾りつけをするよう努めている。光量や温度、湿度などの調整は入居者の意向や状態をみながら、その都度行い、快適に過ごせるような工夫を行うようにしている。	居間兼食堂には大小のテーブルが置かれ、利用者が寛いでいる。壁には、梅や桜の工作飾りや手作りの大判カレンダー、行事写真をポスター化した物が貼られている。居間では華道教室や書道教室を行い、利用者を楽しめる場を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中で、互いが馴染みの関係性の中で、居心地よく過ごすことができるように、利用者同士の関係性に配慮しながら、座る場所や配置を工夫したりして、居心地よい空間づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が愛用していた家具などを持ち込んでもらったり家族との写真を飾ったりし、できるだけ自宅と同様に居心地良く生活できるように配慮している。	居室入口にはウサギ等の人形を配した個々の表札が掛けられている。室内はクローゼットが組み込まれているが個々人で愛用の整理ダンス・テレビ・位牌・仏壇等が持ち込まれ、全室ベッドが配備されて本人が居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人のできること、理解できることを把握して、家具を配置したり、廊下や風呂、トイレの手すりの設置場所など、安全且つ自立できるような環境づくりを行っている。また、日常生活で危険があるものは排除できるよう努めている。		